

露点ゾンデSKYDEW

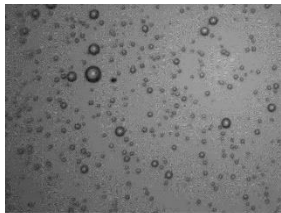
GRUAN第12回国際会議にて露点ゾンデをプレゼン

GRUAN※主催の国際会議がWEB形式で2020年11月18日に開催され、GRUANからの依頼により、水蒸気観測ができる新型露点ゾンデSKYDEWのプレゼンを行いました。成層圏領域まで水蒸気観測ができる従来の露点ゾンデでは、観測の際に冷媒が必要でした。しかし、SKYDEWは、環境に影響を及ぼさず冷媒が不要であるため、取り扱いが容易で、環境負荷も少ないという特徴があります。SKYDEWはGRUANからも大きな期待が寄せられています。このプレゼンを受け、複数の海外気象局から問い合わせがきています。

当社は気象観測の発展だけでなく、環境負荷低減にも貢献できる製品を開発していきます。

※The Global Climate Observing System (GCOS) Reference Upper-Air Network
(気候変動を監視するための高精度な高層観測網の構築推進を図る国際機関)

(担当: 気象防災事業部)



伝送された画像

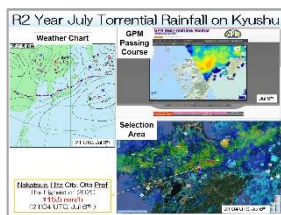
100μm

米国気象学会で新型ビデオゾンデの研究成果発表

2019年から総務省の支援を受けて実施している受託研究開発「雲/降水粒子撮像装置ビデオゾンデの1680MHz帯実験局から400MHz帯気象援助局への移行技術の研究開発」に関して、米国気象学会で研究成果を発表しました。今年度開発した試験機による試験観測の結果も含めて発表しています。新たに開発したビデオゾンデは、従来1680MHz帯で送られていた雲画像を、この帯域の将来の電波有効利用および利用者増加を考慮して、400MHz帯で伝送するものです。

試験観測では、150km離れた場所にある雲中の水滴や氷など、数十μmの大きさの粒子の画像を無事に伝送することができました。気象レーダーの校正や気象モデルの改善に貢献することが期待されるビデオゾンデですが、来年度は国内各地で実証試験を行い、製品化する計画です。

(担当: 気象防災事業部)


 令和2年7月豪雨
衛星と地上のデータ比較

JAXA主催の研究成果報告会で発表

宇宙航空研究開発機構(JAXA)／地球観測研究センター(EORC)との共同研究に、当社社員が参加しています。2019年度成果報告会是对面式で1週間行われましたが、2020年度成果報告会はWEB形式での開催で、2020年12月17日～2021年1月22日の1ヶ月にわたり行われました。

報告会では、レーダー観測技術の向上のためには、地上観測器による気象観測データがいかに重要かを、さまざまな衛星レーダーの研究者に伝えることに重点を置いて発表しました。2021年度以降は、当社社員も衛星観測データと地上観測データとの比較検証作業に本格的に携わる予定です。

明星電気は、これからも気象学の発展のために貢献していきます。

JAXA成果報告会のホームページ

<https://nws.stage.ac/pim2020/>

(担当: 気象防災事業部)

【文中: 敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。